

令和3年度 石峯中学校 学力向上だより

11月4日(木)発行 全国学調結果分析号

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国 語,数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

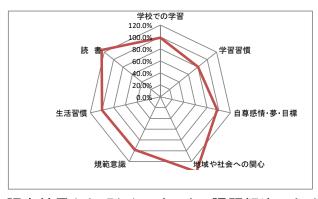
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本 校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 教科に関する調査結果の概要

教科·区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率 との比較
国語	正答率が30~80%の生徒が多く見られる。暗記した知識・技能を答える問題は多くの生徒が解けている。話合いの進め方など、話すこと・聞くことに関する問題の正答率が特に高かった。複数の資料から必要な情報を読み取ったり、情報を組み合わせて記述したりする問題に課題が見られた。長文を読み、内容を要約する問題や、敬語の使い方に関する問題に課題が見られた。	下回っている
数学	正答率が60%未満と、70%以上の2つの集団に分かれる「二極化」の状態にある。与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ったり、中央値を求めたりする問題の正答率が高かった。数学用語を正しく理解し、それを正しく活用して解答することに課題が見られた。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりしながら、解答を記述する問題に課題が見られた。	下回っている

# 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- 話し合う活動で自分の考えを広げ深めたと感じている生徒が多い。
- 困っている人を助けている、思ったことや感じたことをを言葉で表せるなど、他者と適切に接していると感じている生徒が多い。
- 地域行事に参加し、地域のためにできることを考える生徒が多い。
- 読書時間が全国より長いものの、新聞や様々な分野の本に進んで接 するまでには至っていない。
- 起床・就寝時刻が不規則である等、生活リズムに課題が見られる。
- 平日・休日ともに、家庭学習の時間が短い。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組
  - 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、家庭学習→朝自習→放課後石峯タイムと類題を計画的に出題する。 ○ 学習意欲向上と、学び方の定着を図るために、生徒・教師・大学教授が連携して、学び方の現状を分析し、課題に応じた 取組を考える場を設定する。その際、自分の考えや身に付けた知識・技能を「アウトプット」する場を意識して設定する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

〇 学び方を身に付け、学習習慣の定着を図るために、「家庭学習チャレンジシート」を作成し、家庭学習の目標と継続して取り組む内容を設定させる。その後、定期的に自己の取組を振り返ったり、他者との情報交換の場を設けたりする。 ○ スマホ・ゲームの利用時間と、規則正しい生活や学力との関連についての情報を発信し、保護者の理解と協力に努める。